

第62期 第2四半期

FUNAI 通信

2013年4月1日～2013年9月30日



飛躍へ向けて、積極的な事業展開に打って出ます。



代表取締役 執行役員社長 林 朝則

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第62期第2四半期(4-9月)の連結決算が確定しましたので、営業の概況とともに当社グループの今後の戦略などについてご説明します。

当第2四半期(2013年4-9月)の業績

液晶テレビの黒字化が寄与し、投資負担はあったものの増収増益を達成しました。

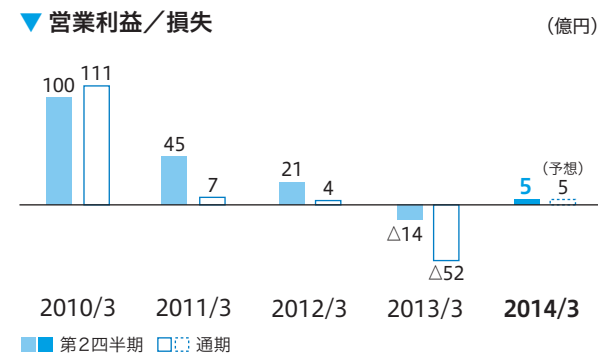
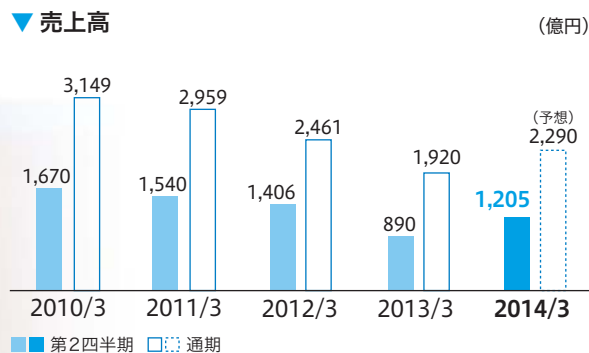
当第2四半期の民生用電気機器業界では、スマートフォンやタブレット端末の販売台数が引き続き伸びましたが、液晶テレビは欧米・国内市場の低迷に加え、中国市場においても家電対象補助金政策の終了後は、低調に推移しました。

このような厳しい状況下にあって、当社の液晶テレビ事業は大画面化による製品価格の上昇などにより北米を中心に売上高を伸ばし、黒字化しました。

これを主な要因として、当第2四半期の連結売上高は1,205億円(前年同四半期比35.4%増)、営業利益は5億円(前年同四半期は14億円の営業損失)、経常利益は21億円(前年同四半期は30億円の経常損失)、四半期純利益は6億円(前年同四半期は29億円の四半期純損失)と増収増益を達成することができました。

▼ 製品別状況

- **液晶テレビ**
売上・利益とも計画を上回り黒字化を達成
テレビの大画面化が増収に寄与
- **DVD関連製品**
売上は計画を上回ったものの、工場再編に伴う費用計上により損益は赤字
- **プリンター**
売上は計画を上回ったものの、自社開発プリンター関連の先行投資負担により損益は赤字



成長戦略・施策

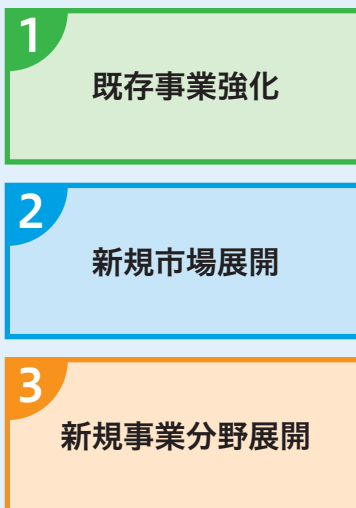
M&A・アライアンスの第一弾としてレックスマーク社のインクジェット関連技術・資産を取得。

当社グループは成長戦略の3要素として、「既存事業強化」「新規市場展開」「新規事業分野展開」を掲げ、さまざまな施策を進めています。「既存事業強化」では競争力の強化と利益率の向上に取り組み、「新規市場展開」ではM&Aによる事業の展開を加速させ、「新規事業分野展開」では研究開発製品の早期事業化を目指しています。

またこれらの戦略を円滑かつスピーディに実行するために、米国レックスマーク社のインクジェット関連技術・資産の取得をはじめ、国内外の提携先などとのアライアンスを強力に推進していきます。また、FUNAIブランドのグローバル展開を加速させ、インクジェット関連事業の拡大や新規研究開発製品の市場投入にも全力を挙げていく考えです。

▼ 事業取得・アライアンスの推進

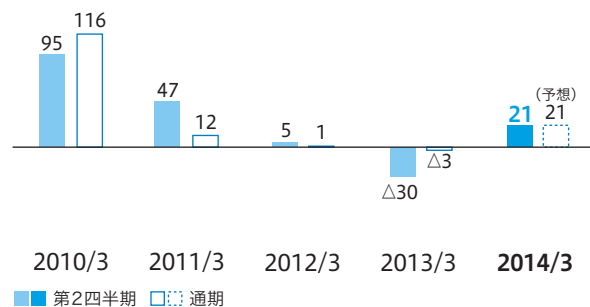
成長戦略とのシナジー効果を発揮



- 収益力の強化
- 事業規模の拡大
- グローバル化の加速
 - ① 販路の拡大
 - ② 生産拠点の再構築
- パテントポートフォリオの強化
- マーケティング力の向上
- デザイン力の向上

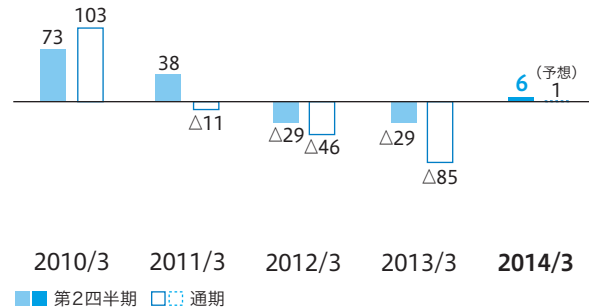
▼ 経常利益／損失

(億円)



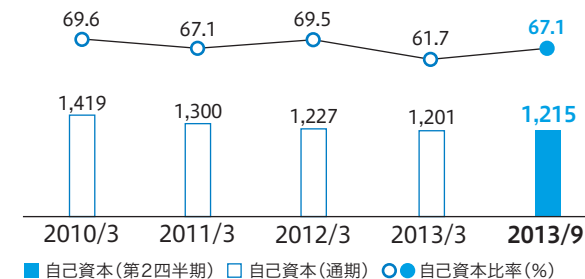
▼ 当期純利益／損失

(億円)



▼ 自己資本・自己資本比率

(億円)



下半期(2013年10月-2014年3月)の見通し

当第2四半期の業績結果を踏まえて 通期の業績計画を上方修正しました。

当下半期は、主要製品である液晶テレビのコモディティ(日用品)化と米国・中国における大画面化が進行するとともに、スマートフォンやタブレット端末の急成長、およびWi-Fi機能(無線)によるAV(テレビ・ブルーレイ・音響)と車載機器との融合が加速すると予想されます。また日本では、アナログ停波後に液晶テレビ、ブルーレイディスクレコーダの大幅な落ち込みが見られましたが、次第に市場回復の兆しも見えてきています。

これらの想定と当第2四半期の業績結果を踏まえて、通期の業績計画を上方修正しました。売上高は2,290億円(期初計画比13.4%増)、営業利益は5億円(期初計画比150.0%増)を見込んでいます。為替レートは1米ドル97.32円を前提としています。

インクジェット関連の事業体制を確立、 FUNAIブランドのグローバル展開も推進。

こうした中で当社グループは、先に述べたレックスマーク社の「インクジェット関連技術及び資産」を有効に活用し、業績への早期貢献を目指します。全世界で1,000件以上取得しているインクジェット関連特許をはじめ、インクジェット関連製品の開発拠点とインクカートリッジ・プリントヘッド製造工場の稼働により、インクジェット事業を自社リソースで完結できる体制を構築しました。また、レックスマーク社から取得したサーマルインクジェット技術を活用し、業務用・産業用インクカートリッジ市場へも参入していきます。

さらに、製品の地域別ブランド戦略においても、従来は欧州やインドなどで展開していたFUNAIブランドを北米でも投入し、グローバル展開を推進していきます。すでに米国の大手量販店ウォルマートにおいて2013年7月からFUNAIブランドのDVD関連製品の

販売を開始しており、今後はブルーレイディスクプレーヤーや液晶テレビの販売も順次スタートします。

また、独占販売契約の下、米国、カナダ、メキシコで販売しているフィリップス社製のオーディオアクセサリ製品の販売地域拡大を推進するとともに、インクジェットプリンター・レーザービームプリンターのグローバル展開も加速させていきます。

これらに加えて、研究開発成果として高齢化社会を見据えた電動歩行アシストカートが、経産省の2013年度「ロボット介護機器開発・導入促進事業」に採択され、社会的課題の解決に役立つ事業を生み出しつつあります。

このような施策にグループを挙げて全力で取り組み、業績の回復を図っていきます。

株主の皆様には、当社グループの事業にご理解を賜り、今後とも変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

TOPICS 生産拠点の再編

当社グループは、事業環境の変化に対応するため、生産拠点の再編を進めています。まず2013年4月に、中国における生産拠点を黄江の委託先工場と中山の自社工場に集約しました。また、これを補完する意味でも同年7月にタイで第3工場を増設し、生産能力を増強しています。

さらに、レックスマーク社から取得したフィリピンのセブ工場でインクカートリッジの生産を開始したことに加え、ルソン島でも2014年5月予定で新工場の建設を計画しています。



フィリップス社による仲裁申し立て

当社は成長戦略の1つとして、フィリップス社のライフスタイル・エンターテイメント事業を承継することで合意していましたが、2013年10月25日にフィリップス社から、当社に契約不履行があり、株式売買契約を解消し、損害賠償請求するために国際商業会議所に仲裁申し立てがなされました。しかしながら、当社に契約不履行はなく、今後の仲裁手続きで正当性を主張する考えです。

なお、現在当社グループとフィリップス社が締結している北米・メキシコでの既存契約には影響はありません。

50年の歴史と技術を未来へつなぐ研究開発

船井電機は、先進国で進行する高齢化や、スマート化された電子機器の世界的な普及といった社会の変化を捉え、それらに対応する研究開発を行っています。現在販売している製品の機能を向上させるだけでなく、当社の確かな開発力と技術力をこうした分野にも生かし、社会的課題を解決することで人々の生活を快適で鮮やかなものにしていきます。中でも、2012年から開発している電動歩行アシストカートは、その先進性と技術力が認められ、経産省の2013年度「ロボット介護機器開発・導入促進事業」に採択されました。

たとえば、ヘルスケア・ライフマネジメントで

Encore Smart アンコールスマート★

年齢を重ねても充実した生活を送りたい——そうした願いを叶えるための技術は日々重要性を増しています。

船井電機は、人々が年齢にかかわらず人生を楽しめるようにする「Encore Smart」コンセプトの製品開発を進めています。

その第一弾として開発された電動歩行アシストカート「ES-01」は、船井電機がこれまでの製品開発で培った技術を生かし、アシスト機能やネットワーク機能を持たせることで、活発で充実した暮らしをサポートします。

★Encore Smart アンコールスマート

第二の人生をより豊かで充実したものにするために。健康に歳を重ね、新たな知識や機会を逃さない毎日をかけがえのない大切な人達と一緒に生きて行くライフスタイル。

そんな想いをこの言葉に込めています。

特徴1 先進的なデザイン
使うことが楽しくなる、先進的なデザインです。

特徴2 簡単な操作
使いやすいインターフェースで、直感的に操作できます。

特徴3 ネットワーク機能
スマートフォンやクラウドに接続し、高齢者の見守りやヘルスケア用途にも使えます。

特徴4 アシスト・ブレーキ機能
モーターの力でアシストし、重い荷物を運ぶ時や、坂道でも安全・快適に移動できます。

電動歩行アシストカート ES-01

船井電機の研究分野



ヘルスケア・ライフマネジメント

高齢者の方に役立つ、ロボット技術やネットワーク技術の応用に取り組んでいます。



オートモーティブ/ヒューマンインターフェース

自動車や医療機器分野でのインターフェースデバイスの開発を進めています。



ネットワーク関連

モバイル機器への映像配信技術など、ネットワーク技術で新しい楽しみを提案します。

使用バリエーション例

カートに装着されている椅子型ボックスを外し、ベビーカーやゴルフバッグを取りつけて使用することができます。旅行や買い物など、用途に合わせた快適な移動を実現します。



NEWS

2013国際ロボット展に出展しました

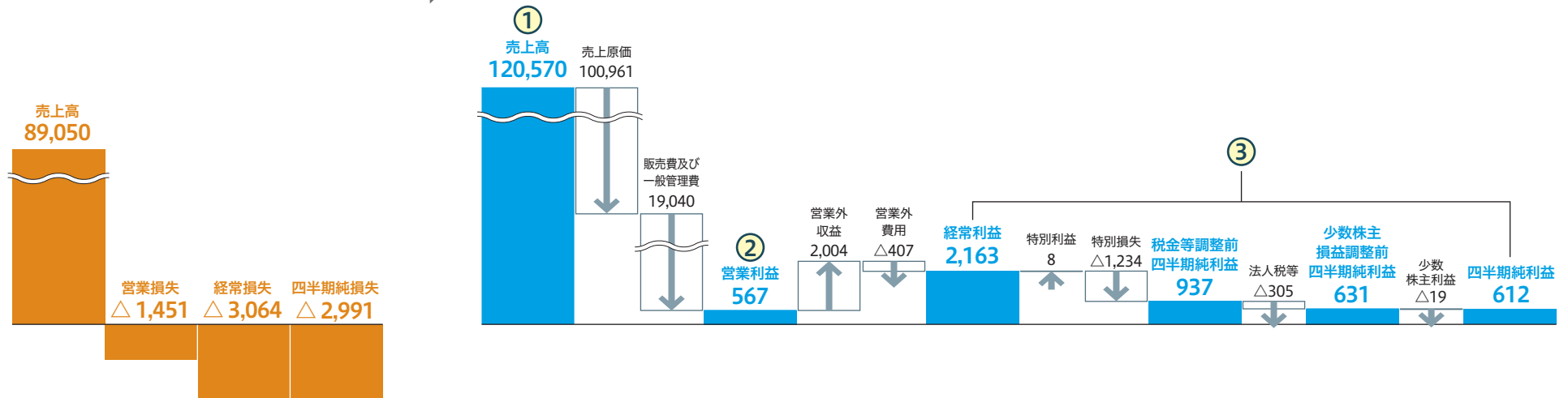
11月6日から9日にかけて行われた「2013国際ロボット展」に、電動歩行アシストカートを出展しました。従来の歩行カートとは一線を画すデザイン性と機能が好評を博し、一時はブースに行列が出来るほどでした。国際的な展示会のため、海外からの来客や学生も多く見られ、盛況の内に終了しました。



連結財務諸表の概要

連結損益計算書 (百万円)

■ 前第2四半期(2012年4月1日～2012年9月30日) ➡ ■ 当第2四半期(2013年4月1日～2013年9月30日)



① 売上高のポイント

液晶テレビは北米及びメキシコにおいて堅調に推移し、大幅な増収となりました。加えて、情報機器もプリンターの受注増やインクカートリッジの売上計上により売上を伸ばしたことから、売上高は31,519百万円増加しました。

② 営業利益のポイント

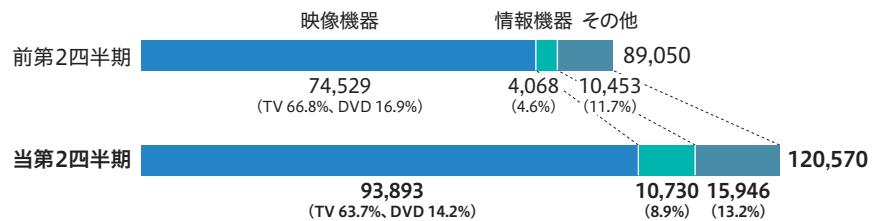
液晶テレビが、好調な売上により2010年3月期の上半期以来の黒字化となったことなどから、567百万円の営業利益となりました。

③ 四半期純利益のポイント

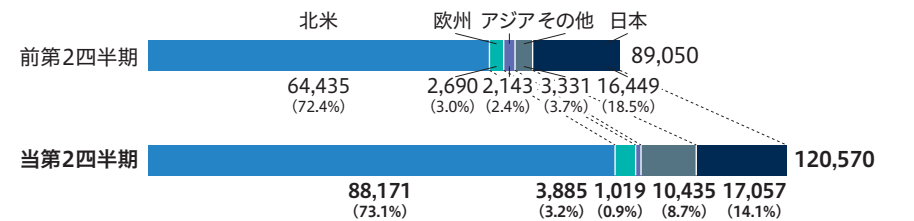
主として、海外におけるLED事業の縮小に伴う事業構造改善費用を特別損失として計上したことなどにより、612百万円の四半期純利益となりました。

参考 機器別・仕向地別売上状況

機器別の売上高

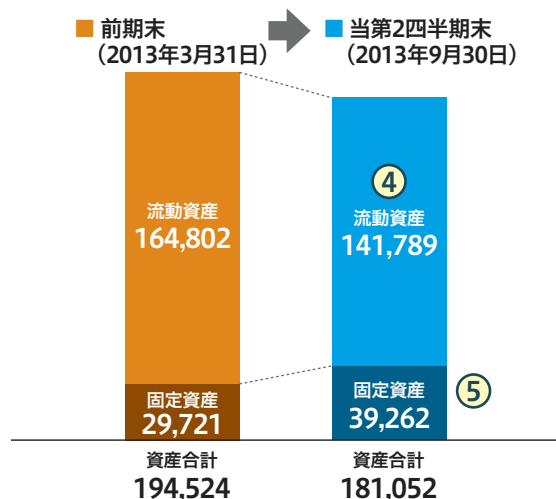


仕向地別の売上高



連結貸借対照表 (百万円)

資産の部



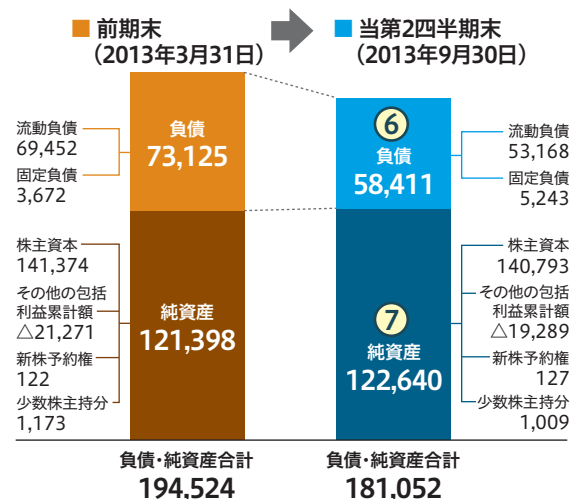
④ 流動資産のポイント

受取手形及び売掛金は増加したものの、現金及び預金が減少したことなどにより、流動資産は23,013百万円減少しました。

⑤ 固定資産のポイント

有形固定資産、無形固定資産が増加したことなどにより、固定資産は9,541百万円増加しました。

負債・純資産の部



⑥ 負債のポイント

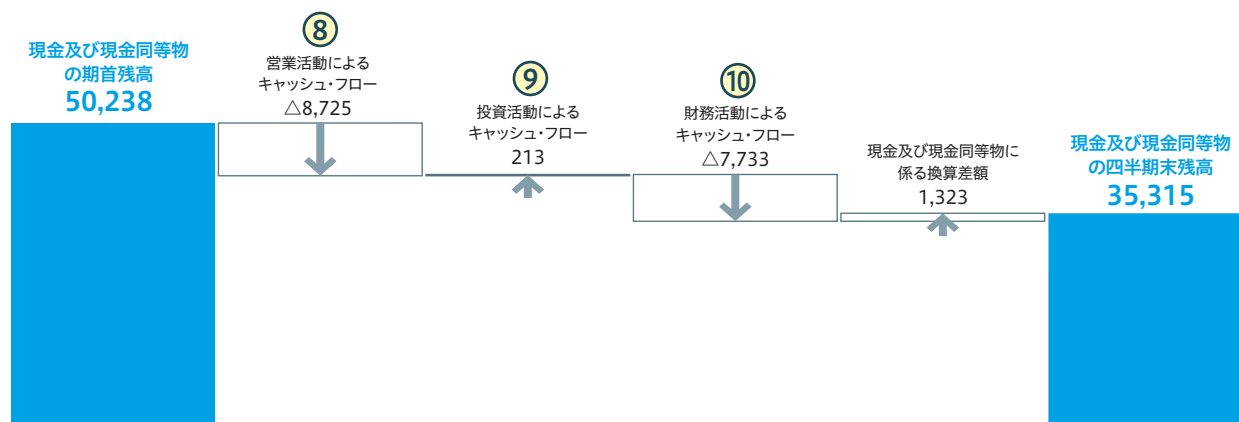
長期借入金が増加したものの、支払手形及び買掛金、短期借入金が減少したことなどにより、負債は14,714百万円減少しました。

⑦ 純資産のポイント

利益剰余金が減少したものの、為替換算調整勘定が増加したことなどにより、純資産は1,242百万円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

■ 当第2四半期 (2013年4月1日～2013年9月30日)



⑧ 営業活動によるキャッシュ・フローのポイント

売上債権の増加や仕入債務の減少などにより、8,725百万円の支出となりました。

⑨ 投資活動によるキャッシュ・フローのポイント

無形固定資産や子会社株式の取得による支出があったものの、定期預金の払戻による収入があったことなどにより、213百万円の収入となりました。

⑩ 財務活動によるキャッシュ・フローのポイント

短期借入金の減少などにより、7,733百万円の支出となりました。

会社概要

(2013年9月30日現在)

商号 船井電機株式会社
 設立 1961(昭和36)年8月
 資本金 313億07百万円
 本社所在地 〒574-0013
 大阪府大東市中垣内7丁目7番1号
 URL <http://www.funai.jp/>

決算 3月31日
 社員数 1,013人(単体)
 業種 電気機器
 主な事業内容 映像機器… 液晶テレビ
 DVDプレーヤ
 DVDレコーダ
 ブルーレイディスクプレーヤ
 ブルーレイディスクレコーダ
 情報機器… プリンター
 その他… オーディオアクセサリ
 受信関連用電子機器

役員

(2013年9月30日現在)

取締役 船井 哲良 …… 取締役会長
 林 朝則 …… 代表取締役 執行役員社長
 上村 義一 …… 取締役 常務執行役員
 岡田 譲二 …… 取締役 執行役員
 米本 光男 …… 社外取締役
 坂内 義明 …… 社外取締役

監査役 石崎 弘 …… 常勤監査役
 米田 信一 …… 社外監査役
 盛本 正英 …… 社外監査役

執行役員 長岡 博文 …… 常務執行役員
 船越 秀明 …… 執行役員
 佐治 成起 …… 執行役員
 野路井 達 …… 執行役員
 宇賀 和男 …… 執行役員
 伊藤 武司 …… 執行役員
 河野 誠 …… 執行役員
 鎮西 清司 …… 執行役員
 前田 哲宏 …… 執行役員

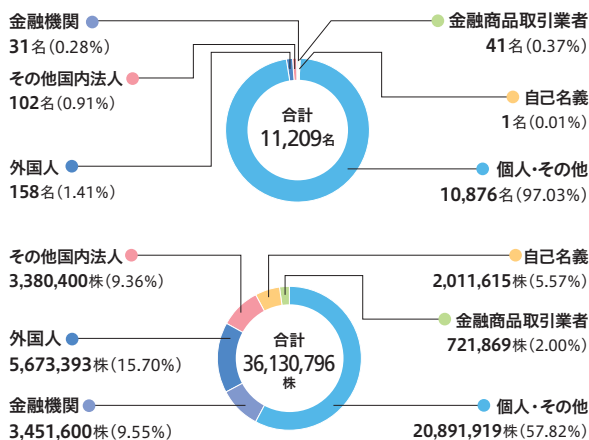
株式の状況

(2013年9月30日現在)

発行可能株式総数 …… 80,000,000株
 発行済株式の総数 …… 36,130,796株
 株主数 …… 11,209名

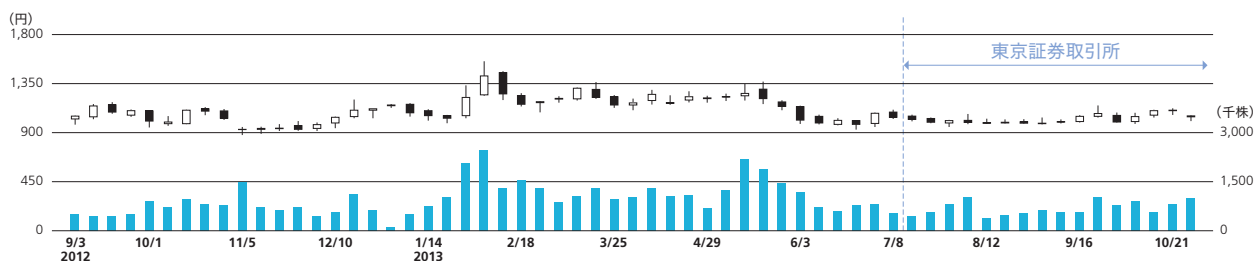
株式分布状況

(2013年9月30日現在)



株価(円)・出来高(千株)の推移(大証)

※大阪証券取引所(2013年7月15日付より東京証券取引所)



ホームページリニューアルのご案内

当社設立からの沿革や事業内容、強みなどを簡潔にまとめた「FUNAI 早分かり」を新設したほか、既存コンテンツも拡充しています。

<http://www.funai.jp/>



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日

※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日
 なお、基準日は上記のとおりであります。配当金の支払いにつきましては、期末配当(年1回)の予定

単元株式数 100株
 公告方法 電子公告により行います。
<http://www.funai.jp/jp/investors/koukoku.html>
 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
 株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 郵便物送付先/各種お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 電話 0120-094-777 (通話料無料)
 (受付時間9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く))
 ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

IRメール配信のお知らせ

当社では、株主・投資家の皆様にホームページにニュースリリースなどが掲載された際にお知らせするメール配信を行っております。ご希望の方は、メールアドレス(携帯電話のメールアドレスは不可)を当社ホームページ(<http://www.funai.jp/>)または、ディア・ネットサービスホームページ(<https://www.dirnet.jp/>)から、ご登録(無料)いただけます。